

事前試験研究

研究課題： 富士五湖における漁業実態の解明

担当者名： 大浜秀規

予算区分： 県単

研究期間： 平成 23～24 年

背景および目的

富士五湖では、ワカサギ、ヒメマス、ヘラブナ、そしてブラックバス等の漁業が行われているが、その漁業の形態や漁獲量及び流通等に関する実態についてはほとんど明らかになっていない。そこで、富士五湖における漁業及び遊漁の漁獲状況及び流通の実態を明らかにし、現況を把握する。これにより問題点を抽出し改善について検討を行うとともに、富士五湖における内水面漁業の振興を図る。

材料および方法

● 増殖実態調査（H23）

- 富士五湖の漁協に対し、増殖事業等に関する既存資料の分析及び漁協事務局への聞き取り調査を行う。
- 項目：増殖の方法・規模・問題点

● 漁獲実態調査（H23）

- 関係漁協を通じ組合員が行う漁業に関し、アンケート調査を行う。
また関係者の一部からは聞き取り調査も行う。
- 項目：漁法、漁獲量、漁獲上の問題、出荷先、単価

● 遊漁実態調査（H24）

- 関係漁協に対し遊漁者が行う遊漁に関し、聞き取り調査を行い、必要に応じアンケート調査を行う。
- 項目：釣法、釣獲量、遊漁上の問題

● ワカサギ等流通実態調査（H24）

- 富士五湖の主要魚種で冬季の釣の中心になるワカサギの流通実態について調査を行う。
漁獲実態調査を通じて明らかになった出荷先に対し、アンケート調査を行い、流通実態を解明する。
- 項目：取扱量、出荷形態、入荷・出荷単価、流通上の問題。

期待される効果と活用面

富士五湖における漁業実態を解明し、現状の問題点を明らかにすることで、今後内水面漁業の振興を図るために行うべき技術開発や指導支援の方向性が明らかになる。